



大銀杏

喜多方市立慶徳小学校 学校だより
令和2年9月11日(金)第29号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【教育目標】 ■かながえる子 ■おもいやりのある子 ■たくましい子

突き放してみる ～自立教育の原点～

昔、あるところに泥棒の親子がいた。親父の泥棒は、なかなか息子に泥棒の秘術を教えてくれなかった。もうそろそろ「シゴト」を始めてもよい年頃になった息子は後継ぎ教育をしてほしいと親父に頼んだ。親父は、実地訓練の名目で息子を連れて、ある金持ちの蔵に忍び込み、長持ちを開け中の宝物を息子に探させた。しめたとばかりに身も軽く飛び込んだとたん、親父は、長持ちのふたをバタンと閉め、鍵をかけて息子を閉じ込めてしまった。その上親父は、「泥棒！ドロボー！」とさげびながら、逃げ出してしまった。*****



驚いたのは長持ちの中の息子泥棒である。必死になってふたを開けようとするがビクともしない。そのうち、家じゅうの者がやって来る。どうしようもなくなった息子は、ふたを爪でガリガリひっかき、ネズミのまねをする。それに気づいた女中がふたを開ける。息子は脱兎のごとく飛び出し、逃げる。大勢の人が追う。井戸のところまで逃げて来た。息子はとっさの機転で、そばにあった石を持ち、井戸に投げ入れる。ドブーン。人々は井戸の周りに集まる。やっとの思いで家に帰った息子。*****

親父は、家でのおんぼりと一杯やっている。目をむいてくらくつく息子に向かって親父は、「これが、わしの教えたい泥棒の術なのだ。」と。_____

例え話としては、いささか教育的ではありませんが、追い込まれた時に身に付けたものは、その人の本物の力になり、自立の一步となる。そんなことを教えてくれる話ではないでしょうか。

「転ばぬ先の杖」を与えるのも親心でしょうが、時に「突き放す教育」も必要なかもしれません。

早乙女踊りの練習を始めました！！



例年7月の半夏生の日に行われていた「慶徳御田植祭」が、今年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となってしまいました。そんな中、伝統的に取り組んできた子どもたちによる早乙女踊りを披露する機会を作りたいとの思いで、来る10月

3日(土)に執り行われる抜穂祭において踊りを奉納することになりました。それに向けての練習を今週から始めました。御田植祭保存会の皆様のご指導のもと、5、6年生の皆さんは思いを新たに練習に臨んでいました。

なお、更なる発表の機会をとということで、喜多方一中のご了解をいただき、10月31日(土)に行われる文化祭の午後の部で、早乙女踊り・笛の演奏を披露させていただく予定になっています。



SNS・ネット利用 実態調査の結果から

昨日、「子どものSNS・ネット利用の実態」に関する調査結果(福島県小学校長会)を別紙にて配付いたしました。

この調査の本校分の集計結果は、学校だより第25号でお知らせしたところですが、今回は県全体の実態をまとめたものとなっております。

- ◆ 所持率→昨年度より8ポイント増の78.0%
- ◆ 利用時間→平日、休日ともに増加。
 - ・3時間以上→平日約10% 休日25%
 - ・5時間以上→平日2% 休日7.6%
- ◆ ルールを決めている 80.5%
- ◆ ルールを守っている 65.3%
- ◆ フィルタリング設定 54.3%

SNS・ネットを含め、ICTの利用について、単に禁止や制限をかけるのではなく、使い方を自分自身でコントロールしていける力を身に付けさせていきたいものです。